

平成31年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「徳性・知能・体力」ともにすぐれ、誠実、明朗で友愛と気力に満ちた人物の育成に努めるとともに、生徒一人ひとりの持てる力を最大限に伸ばし、地域に貢献する人材を育て、地域に信頼される学校づくりをめざす。

そのために、

「確かな学力」への取組みを通して、学習習慣の定着を図るとともに、基礎的な力の定着と自ら学び考えることのできる応用力を養成する

「豊かな心」を育む活動を通して、自尊感情を高め、他者を理解し共感できる力を涵養する

「キャリア教育」を全ての教育活動の中で展開することを通して、明確な将来設計を描き、目標に向かって努力し続ける態度を育成する

2 中期的目標

1 確かな学力の育成と進路実現の支援

(1) 授業力の向上と確かな学力の育成

ア 授業に集中する環境づくりを進める。校内授業見学の充実を図ることにより、教員の授業力を高める

イ 主体的・対話的で深い学びを実現できる授業づくりを進める

ウ 大学入学者選抜改革を踏まえ、社会で自立するために必要な基礎学力を育成するとともに、生徒の学習習慣の確立を図る

学校教育自己診断生徒項目の学習・授業に関する項目の肯定的評価平均を、70% (30年度) 77% (2021年度)

「学校経営推進費」による『進路学習室』の機能を更に生かし、同生徒項目「視聴覚機器等の活用」を、62% (30年度) 70% (2021年度)

(2) カテゴリー制の充実

ア 「人文ステップアップコース委員会 (JSI)」が中心となり、ステップアップコースの一層の充実とともに、カテゴリー制全体の充実を図る

イ 進路意識の醸成と連動したカテゴリー選択指導を充実させる

ステップアップコースの大学進学希望者中、より自己の進路実現に向けて一般入試まで努力する生徒の割合を、37% (30年度) 45% (2021年度)

(3) キャリア教育の推進

ア 生徒の希望する進路の実現に向け、進路指導と人権教育をコラボレートした「総合的な学習(探究)の時間」を軸に、学年ごとの目標の具体化と検証を進め、3年間を見通した全ての教育活動の中でキャリア教育を展開する

イ カリキュラムの充実・改善と生徒への支援のより一層の充実を図るとともに、生徒の進路実現に向け『進路学習室』の機能をより一層活用する。

学校教育自己診断生徒項目、保護者項目の進路指導に関する項目の肯定的評価平均を、76% (30年度) 85% (2021年度)

学校教育自己診断教職員項目の進路「きめ細かい指導」・「組織連携」関係項目の肯定的評価平均を65% (30年度) 75% (2021年度)

2 安全で安心な魅力ある学校づくりの推進

(1) 部活動、生徒会や各種行事等の自治活動の活性化と、自主的に規律ある学校生活を送る意識を高める指導

ア 部活動への加入を一層促進するとともに、生徒会主催のボランティア活動の充実を図るなど、生徒の主体性や協調性を育む

イ 遅刻を減らす取組み、着実な清掃活動の推進により、自分たちで規律ある生活を送り学校をよくし後輩に伝えていく意識を醸成する

1、2年生の部活動加入率60% (30年度) 65% (2021年度)、登校遅刻数760 (30年度) 660以下 (2021年度)

学校教育自己診断生徒項目「生徒会活動は活発である」の肯定的評価を、57% (30年度) 67% (2021年度)

生活指導に関する項目の肯定的評価を、63% (30年度) 73% (2021年度)

(2) 教育相談体制の充実

ア 生徒や保護者に対するきめ細やかな教育相談ができるよう、情報の共有や体制づくり、環境整備の充実を図る

イ 様々な事象に対する円滑かつ確実な対応ができるよう、校内組織に加え、スクールカウンセラーや学校医等、各関係機関との連携を生かす

学校教育自己診断生徒項目の教育相談、支援に関する項目の肯定的評価平均を、72% (30年度) 80% (2021年度)

学校教育自己診断保護者項目「気軽に相談できる」の肯定的評価平均を、64% (30年度) 74% (2021年度)

3 学校の組織力向上をめざした取組み

(1) 学校運営改善に向けた方策の具現化

ア 生徒情報を中心とする学校情報の共有と、学年・分掌等の組織間での円滑・有機的な連携を図る

イ 学校運営改善に向け、「将来構想委員会」及び「4つのチーム」を軸に、組織・教員間で連携・協働し各アクションプランを推進する

(「4つのチーム」: 学力・授業力向上 学校行事・部活動活性化 交流活動 広報・学校説明会)

ウ 各種会議等の在り方について改善を図るとともに、「働き方改革」を見据えた運営改善及び教職員の健康管理を推進する

学校教育自己診断教職員項目の診断「組織連携・運営改善」に関する項目の肯定的評価平均を、58% (30年度) 68% (2021年度)

(2) 経験年数の少ない教員のOJTの推進

ア 若手教育力育成の「さみどり塾」、研究授業の定例化や、「伝え合い・学び合い」の取組みをすすめ世代継承の活性化を図る

学校教育自己診断教職員項目の診断「経験の少ない教職員育成の体制」に関する項目の肯定的評価を、43% (30年度) 55% (2021年度)

(3) 中高・高大・地域連携の推進と広報活動の強化

ア 部活動や体育祭、文化祭での交流等による中高・地域連携、大学からの学生派遣(学習支援)や交流活動等による高大連携を一層推進する

イ ホームページの更新と、ホームページ等を通じた学校の取組みについての発信を強化する

学校教育自己診断生徒項目の「授業や部活動などでの校外連携」の肯定的評価を、51% (30年度) 60% (2021年度)

同保護者・生徒両項目の「学校のホームページをよく見る」の肯定的評価を、生徒28%、保護者31% (30年度) とともに35%以上 (2021年度)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和元年 11 月実施分]	学校運営協議会からの意見																																																												
<p>肯定的回答率の全平均 データ：30 年度 本年度</p> <p>【生徒】66.8% 63.0% 【教員】60.0% 54.4% 【保護者】68.2% 65.8%</p> <p>項目をいくつかのカテゴリーにまとめた場合の傾向</p> <p>【生徒】</p> <table border="1"> <tr> <td>学校全体についての意識： 51%</td> <td>46%</td> <td>学習・授業に関して： 70%</td> <td>66%</td> </tr> <tr> <td>生活指導に関して： 63%</td> <td>57%</td> <td>進路指導に関して： 78%</td> <td>78%</td> </tr> <tr> <td>教育相談、支援について： 72%</td> <td>71%</td> <td>人権教育・学習について： 69%</td> <td>69%</td> </tr> <tr> <td>学校行事、生徒会活動： 61%</td> <td>59%</td> <td>施設・設備に関して： 64%</td> <td>61%</td> </tr> </table> <p>「学校全体についての意識」「生活指導に関して」の減少が目立つが、その他項目はほぼ横ばい又はわずかに減少している。</p> <p>【保護者】</p> <table border="1"> <tr> <td>学校全体についての意識： 68%</td> <td>64%</td> <td>授業・評価に関して： 59%</td> <td>59%</td> </tr> <tr> <td>生活指導に関して： 71%</td> <td>66%</td> <td>進路指導に関して： 75%</td> <td>74%</td> </tr> <tr> <td>保護者連携、参加・相談： 65%</td> <td>64%</td> <td>人権教育、学習について： 73%</td> <td>73%</td> </tr> <tr> <td>学校行事、生徒会活動： 74%</td> <td>71%</td> <td>施設・設備に関して： 68%</td> <td>61%</td> </tr> <tr> <td>学校からの情報提供関連： 67%</td> <td>63%</td> <td>学校教育への参画関連： 65%</td> <td>64%</td> </tr> </table> <p>「施設・設備に関して」「生活指導に関して」の減少が目立つが、その他項目はほぼ横ばい又はわずかに減少している。</p> <p>【教職員】</p> <table border="1"> <tr> <td>教育計画・学校全体： 54%</td> <td>47%</td> <td>授業・評価に関して： 65%</td> <td>60%</td> </tr> <tr> <td>生活指導に関して： 62%</td> <td>63%</td> <td>進路指導に関して： 61%</td> <td>53%</td> </tr> <tr> <td>相談・支援体制： 66%</td> <td>54%</td> <td>人権教育、学習について： 67%</td> <td>67%</td> </tr> <tr> <td>学校行事等特別活動： 53%</td> <td>51%</td> <td>施設・設備に関して： 50%</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>地域・保護者連携： 74%</td> <td>67%</td> <td>学校組織に関するもの： 59%</td> <td>47%</td> </tr> <tr> <td>教育活動改善に関して： 66%</td> <td>59%</td> <td>保護者への情報提供等： 80%</td> <td>74%</td> </tr> </table> <p>「生活指導に関して」は微増しているが、その他は横ばい又は減少している。中でも「相談・支援体制」「施設・設備に関して」「学校組織に関するもの」の減少が目立つ。</p> <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学習・授業」に関して <p>生徒にとって「質問のしやすさ」については8.4%減少したことを受けとめつつ、生徒とのコミュニケーションや生徒の困り感への対応について一層の改善を図る必要がある。</p> <p>「ICT機器の活用」の肯定的意見については、生徒は7.1%増加している一方、教職員は15.2%減少していることから、ICT機器を活用している教員の固定化と、年間を通じた活用の定着化といった傾向によるものであると受けとめられる。「学校経営推進費」の支援によって配備した『進路学習室』の授業での活用は見られるものの、今年度3、4階に配備したICT機器の稼働が遅れたことも減少の一因として考えられる。各階に配備したプロジェクターやBluetooth 対応スピーカー等の更なる活用を図るためにも、無線LAN(Wi-Fi)環境の完備が必須であり、さらに全HR教室へのプロジェクター設置が望まれる。</p> <p>「他の教員の授業見学の機会」については、生徒は昨年度9.1%増加したものの、本年度はほぼ横ばい、教職員も84.6%とほぼ横ばいである。これらは「授業力向上チーム」が中心となって取り組んだ、授業公開週間の有効活用・参加促進の働きかけが肯定的意見の維持につながっていると考えられる。今後もこうした働きかけを継続させていきたい。</p> <p>一方、教職員による「学習指導計画の各教科での検討」の減少(10.9%減)に比べ、「評価に関する話し合い」について7.8%増加(昨年度は10.6%減少)していることから、生徒の実情に対応した評価について工夫・改善を図ろうと努めているものと考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生活指導」に関して <p>生徒指導部では「基本的なマナーやルールの遵守」「基本的な生活習慣の確立」に向け取り組みを進めてきた。特に、遅刻や身だしなみ指導に力を注ぎ、対話指導を取り入れながら丁寧な指導により一定の効果が生まれている。その一方で、生徒の「指導に対する納得」については44.9%(8.5%減)であった。保護者の「間違った行動を厳しく指導してくれる」は77.2%(3.7%減)であった。保護者の「生徒指導方針に共感できる」は59.3%(5.4%減)という状況である。</p> <p>時間やルールを守ること、身だしなみを整えることといった、社会通念上必要な指導を日々行っている一方で、生徒・保護者の納得・共感を得られていないとするならば、今後、生徒・保護者に対して、指導の趣旨・目的等についてより一層理解を図る必要がある。また、教員の「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導」も59.0%(16%減)と低くなっていることから、教職員間で生徒指導のあり方について協議し、共通理解を図りながら改善点を探り、学校をあげて指導に当たっていく必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「進路指導」に関して <p>カテゴリーでの肯定率は生徒・保護者ともにほぼ横ばいであるが、教職員は8.8%減になっている。これは教職員の「興味関心、適性に応じたきめ細かい指導」が69.2%(5.9%減)、「系統的なキャリア教育」は35.9%(11.8%減)となっていることによる。この結果から、現在の系統的なキャリア教育、進路指導計画及びそれらの指導が、生徒の進路ニーズの多様化等の実情に適応できているのか、改めて再確認するとともに、「総合的な学習(探究)の時間」等の教育活動との連動も考慮し、系統的・体系的な進路指導ができるようより一層の工夫が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「情報提供」に関して <p>保護者の「学校の教育情報提供の努力」75.0%(4.7%増)、「ホームページをよく見る」34.7%(3.3%増)と増加している一方で「地震・台風等の行動マニュアルが知らされている」66.8%(18%減)、「家庭連絡、意思疎通」64.9%(9.7%減)と減少している。「ホームページへの掲載が遅い」等の指摘、7/25集中の対応として、今後も緊急時における連絡方法の周知徹底と、</p>	学校全体についての意識： 51%	46%	学習・授業に関して： 70%	66%	生活指導に関して： 63%	57%	進路指導に関して： 78%	78%	教育相談、支援について： 72%	71%	人権教育・学習について： 69%	69%	学校行事、生徒会活動： 61%	59%	施設・設備に関して： 64%	61%	学校全体についての意識： 68%	64%	授業・評価に関して： 59%	59%	生活指導に関して： 71%	66%	進路指導に関して： 75%	74%	保護者連携、参加・相談： 65%	64%	人権教育、学習について： 73%	73%	学校行事、生徒会活動： 74%	71%	施設・設備に関して： 68%	61%	学校からの情報提供関連： 67%	63%	学校教育への参画関連： 65%	64%	教育計画・学校全体： 54%	47%	授業・評価に関して： 65%	60%	生活指導に関して： 62%	63%	進路指導に関して： 61%	53%	相談・支援体制： 66%	54%	人権教育、学習について： 67%	67%	学校行事等特別活動： 53%	51%	施設・設備に関して： 50%	40%	地域・保護者連携： 74%	67%	学校組織に関するもの： 59%	47%	教育活動改善に関して： 66%	59%	保護者への情報提供等： 80%	74%	<p>【第1回】5月17日(金) 本校会議室にて</p> <p>1. 学校経営計画に関する事項</p> <p><意見交換></p> <p>(1) 働き方改革と部活動の充実について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両立は大変ではないか。 ・先生が元気な学校は、生徒も元気。先生方が元気でいられるようにしていただきたい。 ・どの業種でも同じ問題があり、工夫が必要。 <p>(2) 自転車通学による事故の防止について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通安全週間を設け重点的に指導することは大切である。 <p>2. 教員の授業その他の教育活動に係わる保護者からの意見の調査審議に係わる事項(保護者から調査審議に係わる意見はなかった。)</p> <p>3. その他、校長が必要と認める事項</p> <p>主に、各分掌・学年より今年度の目標に関する説明について</p> <p><意見交換></p> <ul style="list-style-type: none"> ・北河内の生徒は確実に減少。「3年間できっちり卒業する学校」を保護者は望んでいる。 ・不登校、遅刻の生徒をなくし、入学した生徒全員を卒業させる学校をめざしてほしい。 <p>【第2回】11月1日(金) 本校会議室にて</p> <p>1. 各分掌、学年の今年度の進捗状況について</p> <p>(1) 教務部より：新カリキュラム作成</p> <p>(2) 生徒指導部より：遅刻減少に向けての取組み</p> <p>制服導入に伴う、着こなし講座の実施</p> <p>(3) 進路指導部より：3年生の進路状況：就職希望者は全員合格</p> <p>(4) 保健部より：清掃マニュアル作成 防災計画の見直し</p> <p>(5) 生徒会より：生徒会自治の活性化 対外的な交流活動</p> <p>「学校生活協議会」(わくわく委員会)の設立</p> <p>2. 長尾高校の方向性について</p> <p>現状を踏まえ、生徒に将来の目標をもたせることが重要課題である。</p> <p>「活用力」「交流力」「行動力」の三つの力を柱に、物事を深く考え、行動できる力を育成する。</p> <p><意見交換></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「わくわく委員会」の今後の活躍に期待する。みんなで盛り上げ、みんなが楽しむ生徒会活動にしてほしい。 ・出口でつけておきたい「力」とカリキュラムのつながりをさらに考慮してカリキュラム作りを進めてほしい。 ・将来の目標をもたせるために3つの力を育むことはとてもよいこと。 ・将来につながる多くの経験をさせ、現実を認識させ、また、自分に必要なカリキュラムを選ぶ力をつけさせてほしい。 ・保健部の防災マニュアルの見直しの説明で他校の状況を聞き参考にしていくとあったが、これは大切なことである。ぜひ進めてほしい。 <p>【第3回】2月14日(金) 本校会議室にて</p> <p>1. 学校経営計画及び学校評価について(学校教育自己診断結果を含む)</p> <p>(1) めざす学校像について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会で活躍できる人間の育成を通じ地域から信頼される学校をめざす ・4つの活動(学習・部活動・自治活動・地域連携)を大切に、人間力を高める <p>2. 分掌、学年から今年度の取り組み報告について</p> <p>(1) フレッシュマンキャンプについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在校生の企画・運営で新入生を迎えることにより人間関係を学ぶ <p>(2) わくわく委員会について(2月6日記念すべき第一回を開催)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提案書をもとに各担当生徒が説明。意識の高さに期待が持てる。 <p><意見交換></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「めざす学校像」について、社会で活躍できることをキーワードに、「主体性」「課題発見力」「実行力」を身につけることが大切。 ・社会、地域につながる視点、「対社会」「対他者」のポイントを押さえることは大切。 ・「学習活動」特に「確かな学力」について「全ての生徒にわかる授業」が重要。授業の「可視化・構造化(組み立て)・学び合い」が大切。 ・部活動の目標設定、例えば活動を通してどのような力を身に付けさせるのか、といった目標を具体化・共有化することが重要なポイント。 ・現状の生徒にあった部活動の在り方について考え直す時かもしれない。 ・中学生からあこがれの対象の生徒を育成することが大切である。 ・わくわく委員会の活性化により、本当の生徒会自治をめざしてほしい。 ・他校生との交流は、意識も高まり有意義で有効である。今後も継続し、さらに交流の場を広げていくのが望ましい。
学校全体についての意識： 51%	46%	学習・授業に関して： 70%	66%																																																										
生活指導に関して： 63%	57%	進路指導に関して： 78%	78%																																																										
教育相談、支援について： 72%	71%	人権教育・学習について： 69%	69%																																																										
学校行事、生徒会活動： 61%	59%	施設・設備に関して： 64%	61%																																																										
学校全体についての意識： 68%	64%	授業・評価に関して： 59%	59%																																																										
生活指導に関して： 71%	66%	進路指導に関して： 75%	74%																																																										
保護者連携、参加・相談： 65%	64%	人権教育、学習について： 73%	73%																																																										
学校行事、生徒会活動： 74%	71%	施設・設備に関して： 68%	61%																																																										
学校からの情報提供関連： 67%	63%	学校教育への参画関連： 65%	64%																																																										
教育計画・学校全体： 54%	47%	授業・評価に関して： 65%	60%																																																										
生活指導に関して： 62%	63%	進路指導に関して： 61%	53%																																																										
相談・支援体制： 66%	54%	人権教育、学習について： 67%	67%																																																										
学校行事等特別活動： 53%	51%	施設・設備に関して： 50%	40%																																																										
地域・保護者連携： 74%	67%	学校組織に関するもの： 59%	47%																																																										
教育活動改善に関して： 66%	59%	保護者への情報提供等： 80%	74%																																																										

<p>タイムリーかつ確実な連絡ができるよう体制改善を図る必要がある。あわせて、生徒への「地震・台風等の行動マニュアル」の周知徹底については喫緊の課題である。</p>	<p>・生徒が楽しみながら人間関係づくりができる、生徒自ら「やりたい」と思える活動の場を充実させ、生徒間、生徒と先生間のつながりをより一層築いてほしい。</p>
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 (H30 H31) 学校教育自己診断結果: 例【生徒】	自己評価
<p>1 確かな学力の育成と進路実現の支援</p>	<p>(1) 授業力の向上と確かな学力の育成を図る ア 授業に集中する環境づくり イ 主体的・対話的で深い学びを実現できる授業づくり ウ 生徒の基礎学力の育成、学習習慣の確立 (2) カテゴリー制を充実させる ア ステップアップコースの検証とカテゴリー制全体の充実 (3) キャリア教育を充実させる ア 年間目標の具体化と検証 イ カリキュラムの充実・改善 ウ 「学校経営推進費」による『進路学習室』の更なる活用</p>	<p>(1) 授業規律の確立に向け、共通理解のもと、統一した指導を徹底して行う。 ア 生徒との良好なコミュニケーション ・「授業力向上チーム」による授業見学の活性化、優れた取組み(GP)の共有化、環境整備 イ 教科内研修等、教員間の研鑽を図る。 ・視聴覚機器、図書館を活用した授業の実践 ウ 『自己探究』の充実、評価を円滑に進める。 ・学習支援ツールを活用した、生徒の基礎学力の向上、学習習慣の確立 (2) 学力の定着度や伸び等、データをもとに的確なアドバイスを計画的・継続的に行う。 ア 模試、学力生活実態調査の有効活用 ・理系進学対応の強化 ・J S I の効果的な運用 (3) ア 3年間を見通した系統的・体系的な進路指導計画の具体化と共有化 ・生徒が身近な存在をモデルに進路を考えることができる機会の更なる充実 イ 「総合的な学習(探究)の時間」や「道徳教育」等を含む新カリキュラムの具体化 ウ 進学講習、資格取得に向けた講習や面接指導等の更なる充実 ・英語、情報関連検定への積極的な取組推進 ・プレゼン等、授業での更なる活用</p>	<p>(1) アイ ・【生徒】項目「学習・授業関係」の肯定的評価の平均(70% 75%) ・【生徒】「他の先生が授業を見る」(56% 60%) イ 【教職員】「検討する機会」(57% 60%) 【生徒】「視聴覚機器を使う授業」(62% 65%) 【教職員】「図書館活用」(50% 55%) ウ 円滑実施、効果について検証 (2) 新指標の明確化(1学期中) ア 大学進学で一般入試まで努力する生徒(37% 40%) ・通信の発行(最低各学期1回) (3) ア 【生徒】【保護者】進路関係項目(生:78% 80%以上、保:75% 78%以上) ・機会づくりと評価、改善状況 イウ 運用と具体化、活用状況 ウ 【教職員】進路「きめ細やかな指導」・「組織連携」関係項目平均(65% 70%) ・「英検」受検者数2割 up・準2級以上合格率(150・25% 180・30%) 「情報」受検者数2割 up・合格率(32・75% 38・80%)</p>	<p>(1) ア「学習・指導関係」(70% 66%)() 指標には届いていないが、朝学習の効果もあり、授業時の切替えは向上。・「他の先生が授業を見る」(56% 55%)() 公開授業週間の授業観察奨励を引き続き行う。イ「検討する機会」(57% 51%)()、「視聴覚機器を使う授業」(62% 69%)() 「学校経営推進費」と同窓会により整備した ICT 機器の活用を図る。「図書館の活用」(50% 46%)() 教科との連携により活用を促進する。ウ「名文書写」「脳トレ」「SDGs(3年生)テーマ」を新導入。() (2) 「学力生活実態調査」結果を活用する。 ア 31%() 本校も安全志向が顕著となった。 ・毎回職員室ホワイトボード上に掲示し共有化。() (3) ア(生:78% 78%、保:75% 74%)() 「卒業生講話会」を実施。意識付けに効果。() イ 関係委員会での検討が進む。各教科・学年、生徒会、進路指導部等間連携を図る。() 「道徳教育」: 平和学習をテーマに実施。() ウ(65% 58%)() 講習・面接指導は早朝・放課後・土日と丁寧に実践。各学年の進路説明会・講演会も計画的に行い充実させている。 ・「英検」(150・25% 144・30%) 「情報」(32・75% 28・82%)() 合格率は向上。新たに「数学・ニュース・漢字」検定受検へと拡大した。() ・授業での活用ルールを定め活用中。()</p>
<p>2 安全で安心な魅力ある学校づくりの推進</p>	<p>(1) 部活動、生徒会活動の活性化、規律ある学校生活の確立を図る ア 部活動、生徒会活動の活性化 イ 遅刻指導、清掃活動推進 ウ 制服指導の充実 (2) 教育相談体制を充実させる ア 情報の共有や体制づくり、環境整備や研修の充実 イ 「いじめ防止」をはじめとする人権教育の充実 (3) 交通安全指導、防災教育を充実させる</p>	<p>(1) 指導方針・内容の共通理解の徹底と共に、キャンペーン等、指導上の工夫を一層図る。 ・生徒の「理解と納得」を図る説明と指導 ア 部活動加入の促進の更なる強化 ・勧誘活動、部活動の発信力向上(学校HP等) ・図書委員活動の更なる充実 ・生徒会執行部が主催、活躍する行事の充実 ・達成感や自己肯定感を味わえる活動の実現 イ 登校遅刻の更なる減少 ・清掃の徹底強化、保健委員活動の活性化 ウ 制服指導に学校をあげて取り組む。 (2) 教職員の意識向上と体制強化を図る。 ア 早期発見・対応に向けて指摘し合える体制づくり、「生徒支援委員会」の効果的運用 ・教育相談室の活用等、教育相談機能の充実 ・人権感覚に富んだ生徒への言葉かけ・対応 イ 「いじめ防止(対応)委員会」と各種会議、外部の関係機関との効果的な連携 ・いじめアンケート等の活用と対応の充実 (3) 関係機関との連携による交通安全指導、防災避難訓練等の更なる充実を図る。</p>	<p>(1) ア 部活動加入率(60% 63%) 1年は65%以上 ・HPの定期更新 ・図書委員、生徒会活動の具現化(新規又は改善2件以上) ・【生徒】「生徒会活動は活発」(57% 62%) イ 年間登校遅刻700以下(H30:760) 【教職員】清掃関係項目(25% 50%) ウ 統一した指導の着実な実施 (2) ア 「相談・支援関係」項目(【生徒】75%以上、【教職員】66% 70%) 【保護者】「気軽に先生に相談できる」(64% 70%) イ 【生徒】「いじめ等への対応」(72% 75%) 【生徒・保護者】「人権尊重」平均(71% 75%以上) (3) 【生徒・保護者】「防災関係」(80%・85% 83%・85%以上)</p>	<p>(1) ア 加入率63.5%、1年:76.8%。(5/1時点) 今後も加入促進に努める。() ・9月から一斉に更新。今後も一層努める。() ・「こどもに本を届ける活動」を実施し、児童書を枚方市図書館に寄贈。文化祭開会行事、学校説明会での企画運営、近隣小中学校行事、高大連携行事にも新たに参画。第1回「わくわく委員会」開催。議案書提出、学校への提案。() ・(57% 61%) ほぼ達成。全校的な理解が必要。 イ 年間登校遅刻(760 728)()・清掃関係(25% 39%)()14%向上。引き続き取り組む。 ウ ほぼ定着しており、指導細目を更新中。() (2) ア(【生徒】71%、【教職員】54%)() 組織間連携、外部機関との連携を更に図る。 【保護者】「気軽に相談できる」肯定65%() イ (72% 68%)() S C との連携、S C S V による研修成果を生かしていく。(71% 71%)() 情報把握、迅速な対応を図る。 (3) (生65%、保67%)() 生徒会による啓発活動を一層充実させる。防災訓練、体制の強化を図る。学校HPへのアクセス集中の対応を図る。</p>
<p>3 学校の組織力向上をめざした取組み</p>	<p>(1) 学校運営改善を実現する ア 学校情報の共有と、組織間での円滑・有機的な連携の充実 イ 学校運営改善に向けたアクションプランの推進 ウ 「働き方改革」を見据えた運営改善及び教職員の健康管理 (2) 経験年数の少ない教員へのOJTを推進する ア 「さみどり塾」、研究授業の定例化 イ 世代継承の取組み (3) 中高・高大・地域・PTA連携の推進と広報活動の強化を図る ア 高大連携の充実 イ 中高・地域連携</p>	<p>(1) ア・的確な「報・連・相・確認」の推進 ・各方針の学年、教科、分掌・委員会間での統一、全体での共通理解の徹底、協力と実践 ・分掌等の業務、チーム分担の明確化 ・個人情報保護・管理のより一層の徹底 特に、ガイドラインやルール理解の徹底 ・コンプライアンスに係る教職員の意識向上 イ 「将来構想委員会」及び「4つのチーム」を軸にアクションプランを組織的に推進 ・改善に向けた前向きな提言の反映・採用 ウ 職員会議の在り方、各種会議の精選、ペーパーレス化を含め、会議の効率化を図る ・統合ICTの活用、教材、案内文書等の共有 ・時間外在校時間が多い教職員への個別指導 (2) ア 授業力・指導力・関係調整力を育成し、伸ばす(相互授業見学、OJTの活性化) ・「さみどり塾」等、校内研修の更なる充実 イ 全教職員が「学ぶこと、伝えること」いずれかを目標化する。 (3) 市内小中学校、地域との連携、PTAの参画により、行事等での交流を充実させる ・オープンキャンパスの充実、参加者の増大 ・広報ビデオや新リーフレット等の更新 ア 高大連携の推進を図る。 (大学生の学習支援・インターンシップ受入、留学生との交流、研修依頼等)</p>	<p>(1) ア 取組状況により検証 【教職員】「学校組織」(54% 60%) 【保護者・教職員】「個人情報の管理」(80%・71% 85%・80%) イ 進捗・達成状況により評価 ・「学校経営計画」等に反映 アイウ 【教職員】「組織連携・運営改善」平均(58% 65%) ウ 【教職員】「会議の有効機能」(32% 45%) ・活用状況により検証 ・学校安全衛生委員会、個別指導を毎月実施 (2) アイ 【教職員】「経験少ない教職員を育成する体制」(43% 50%以上) イ 自己申告票で全員が目標化、達成状況で80%以上 (3) アイ 新規取組又は改善を少なくとも新たに2つは行う ・学校説明会等への参加者数(573 650以上) ・【生徒】「授業、行事等を通して校外と交流機会」(51% 55%)</p>	<p>(1) ア(54% 48%)() 新たな提案等の全体化・共有化をより組織的に行う必要がある。 ・特定教員への負担感がある。各種委員会の業務内容を整理し明確化に取り組み中。() ・(保:80%、教:46%)() ルール徹底に加え、執務機の鍵を再確認し、対策を講じる。 イ (58% 51%)() チームの位置づけ、検討内容を教職員全体で共有を図る。業務の偏重に留意しアクションプラン推進を図る。 ウ (28%)() 試行を踏まえ次年度に反映。 ・委員会、個別指導の毎月実施はできず。() (2) ア(39%)() 初任者の研究授業・協議が特定の教員に限定した。その改善が課題。 ・初任研や2年目研修、10年研を融合した「さみどり塾」で若手教員がテーマ別に運用。校長への運営改善の提言を行った。() イ 目標化はできている。達成状況:83%() (3) アイ これまでの活動に加え、関西外国語大学からは留学生2名が約1ヶ月来校。摂南大学との連携により、指導員・大学生・在校生有志による新入生対象の「フレッシュマンキャンプ」実施(4/11)に向け準備中。交野市教委主催の「発明クラブ」にも参加協力。() ・説明会等への参加者数(573 666名)() ・(49%)() 長尾駅伝、長尾カップに加え交流活動が5件増加。参加生徒の活躍と成長は感</p>

府立長尾高等学校

	<p>の充実 ウ ホームページの更新、発信強化</p>	<p>イ 中高・地域連携の推進を図る。(インターンシップ受入、授業見学、部活動交流等) ウ 学校情報の発信強化を図る。 ・ホームページのコンテンツ充実、更新の定着 ・生徒・保護者への周知の徹底、趣旨・目的、内容の明確化</p>	<p>ウ 【生徒・保護者】「HPをよく見る」(28%・31% 33%・35%) ・「校長ブログ」年間掲載数(121 150)</p>	<p>じられるが、他の生徒への還元を図っていく。 ウ 9月以降は更新を奨励したため充実。() ・(生 23%、保 35%)() 保護者は指標どおりで達成と考える。生徒については、生徒会のページ新設等、対策を講じる。・校長ブログは106回、月平均8.8回(H30:12)にとどまった。()</p>
--	---------------------------------	---	--	--